

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700187		
法人名	社会福祉法人 清水新生会		
事業所名	グループホーム かがやき荘		
所在地	福井県坂井市三国町陣ヶ岡13-3		
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成27年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事を必ず月に1回～2回はおこなうようにしており利用者様の気分転換をはかっている。行事としては室内でおこなう行事の他に外出行事を必ずおこなっており毎年同じような所に出かけるのではなく違った所に外出している。 ・地区のボランティアとして公園や公園付近の落ち葉拾いやゴミ拾いをおこなったりしている。 ・利用者個人の好きなことを把握しその事についてのレク等をおこなっている(図書館外出、入浴で大浴場外出等) ・普段、出来る事は声掛けをし無理強いをせず取り組んでいただいている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>福井県の代表的な観光地である東尋坊にほど近く、周囲を林野に囲まれた穏やかな環境の中に位置している。また三国町陣ヶ岡の町に隣接しており、地域住民との距離も近い。地域密着型介護老人福祉施設や看護小規模多機能型居宅介護事業所及び定期巡回随時対応訪問介護看護事業所が一体となった複合施設の中にあり、地域の高齢者福祉の拠点となっている。開設して2年半ということもあり、新しく清潔感のある環境である。職員間や利用者との関係性が良く、職員一体となって地域との関わりを重視していくことに力を入れ、志を統一している。さらに、外出行事に力を入れており、月2回以上地元への買い物や散歩、日帰り旅行などを企画し、利用者が楽しく生活できるよう心がけている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議後に理念を合唱している。	法人の理念を掲示し、毎月職員会議で唱和し意識を高めている。事業所単体の理念はないものの、入居者の個々の状況に応じた支援ができるよう話し合いを持ち、理念を踏まえた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事にボランティアとして参加したり施設の行事に参加して頂き交流を図っている。	地域の餅つき大会や秋祭りに参加したり、施設を一般開放し認知症サポーター養成講座を開催したりするなど、徐々に交流が増えているが、更なる関係性を深めていく必要性を認識している。	地域との交流は徐々に増えてきているものの、更なる交流を図る必要性を認識しているため、地域に出向く、地域住民を招くといった双方の関係をより密にしていきたいための取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献について、地域の中学生の職場体験を受け入れるなど、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「地域の区長や民生委員、ご家族代表、ご利用者代表、広域連合代表等で構成している運営推進会議」そこで出た意見をサービス向上に役立たせている。	利用者・家族代表・民生委員・区長・広域連合担当者の構成で併設の事業所と合同で開催している。しかし、地域住民からの意見を期待しているものの、残念ながら活発な意見交換には至っておらず課題となっている。	他の運営推進会議に参加している広域連合担当者などから助言を得て改善を図り事業所と地域の相互理解を深め、より充実した会議になることを期待したい。またゆくゆくは合同ではなく事業所単体での開催とすることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との情報交換等をしながらか協力関係を築いている。	市の担当者とは主に電話にて情報交換を密に行い適切な運営に努めている。また、広域連合職員が毎回運営推進会議に出席し、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実践しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会規定に基づき身体拘束委員会を設置し、研修会を実施している。ケア会議等で職員全員で協議し、拘束を行わないケアに努めており、実際にも拘束はない。事業所の出入り口は自由に行き来できる環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員間で虐待に関する勉強会を実施し参加している。職員間でも虐待を見過ごさないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個人個人で学ぶ機会を得ているが、それについての話し合い等は実施されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に、必ず契約書や重要事項説明書にのっとり説明し、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対する体制等、マニュアルに基づき、意見が反映されるように努めている。	利用者の日々の声に耳を傾け要望や希望を探っている。また、毎月写真付きの手紙を家族向けに作成しており、関係の継続に工夫を凝らしている。家族の訪問時には積極的に声をかけ情報交換している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、運営推進会議を通じて意見を反映させている。	雰囲気は明るく、常に声を掛け合い、意見交換できる環境である。月1回の職員会議でケアや運営について話し合いを密にしている。地域との繋がりや貢献という課題を職員間で共有し、改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内外部の研修をすすめるなど、向上心をもって働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングをしていく事をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長会やケアマネ会など、勉強会の活動を通じて、情報のやり取りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との話し合いを持ち、要望など聞き取り、本人の安心を得られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時やケアプラン更新時、面会時にご家族とお話しし不安な事や要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応と見極めの支援については、最初(とりあえず)をどうしていくかを考え、必要な事ことから支援できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は自分でしてもらうことで職員と出来るだけ対等な関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が本人の為に出来る事を職員から提案し一緒になって、本人を支えて行くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも馴染みの方、ご近所の方も含めていつでも来ていただけるように努めている。	利用前に家族や本人より情報収集し、職員会議で情報を共有している。家族の協力の下で外出したり一時帰宅したりしている。特に外出行事には力を入れており、月に2回以上馴染みの地域へ出向いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士でテーブルを一緒にしたりと利用者同士の関わり合いを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係が切れないよう、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握につとめている困難な場合や当方のケアプランに合わない場合は本人の意向に沿うように検討している。	日頃の関わりの中から利用者の意向の把握に努めている。各職員の気づきを重視し、職員会議の中で話し合っている。利用者が不穏な時は、対応を随時振り返り、利用者の意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスや面会時等にご家族の方にこれまでの暮らし方等を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント等において、暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等を用いて、家族や職員やケアマネージャーなどと話し合い、介護計画に反映している。	プランは各担当者が作成し、ケアマネージャーが統括的に管理している。各職員が積極的にプラン作成に携わることで介護計画がより充実し、現場に反映しやすくなっている。カンファレンスは本人家族を交えて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が細かく記録に残し、また情報を共有しながら見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に本人の変化に対応してニーズをとらえ柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの仕事や趣味、近所付き合いを把握し本人が出来る事を無理なく出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については本人や家族の希望を大切にしている。本人のかかりつけ医と当方との関係を築きながら、適切な医療を受けられるようにしている。	基本は同意の上で協力医への紹介となるが、希望を一番にしている。受診は家族同行を原則としているが、状況に応じて職員が対応している。その場合は、家族への情報提供や情報の共有を積極的に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を図り利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院しても定期的に面会に行ったり家族や入院先の病院とも連携をとったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても安心してすごしていただけるようご家族とも話し合い情報を共有している。	法人のマニュアルに従い同意書を得ている。看取りを行った経験があり、利用者の状態に応じて随時カンファレンスを行い、支援内容を毎週見直している。利用者やその家族が安心できるよう、職員一同で検討しケアを提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて内部勉強会を開いたりし実践ですぐ使えるように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるように避難訓練を行っている。	年に2回複合施設全体で避難訓練を実施している。施設自体も地域の避難場所に指定され、地区の指定避難所は雄島小学校で約500mと近い位置にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない声かけを常に心がけている。	利用者中心主義、利用者の自立と自己実現を法人理念に謳い、職員会議や復命書を通じて、尊厳や人権の擁護について職員間で意識を高めている。利用者一人ひとりが主役になれる支援に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたい事食べたいもの飲みたいものなど聞いたりし自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合より一人ひとりのペースを大事にし希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿ってカットしたり行事に合わせておしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの力を活かしながら、職員と利用者が一緒になって準備や配膳、後片付けをしている。	複合施設に栄養科があり、バランス良い栄養管理がなされている。また、畑で収穫した野菜を利用者と一緒に調理し味わうこともある。利用者持参の食器を使用し、食が進みやすい工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせて、食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通して確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの口腔状態に合わせ、その人の生活状態習慣も考慮しながらケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛けし失敗のないように取り組み、紙パンツから布パンツに移行し自立に向けた支援をおこなっている	日頃の支援の中から利用者の排泄状況を把握し、職員会議を通じて支援を統一し、紙パンツから布パンツへの移行を実現している。排泄の自立に向け取り組み、半分以上の利用者が布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェック、牛乳を提供したり本人の好みに合わせて飲食物を提供したり、毎日、排便体操をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日などは決めているが、本人の体調や嗜好に合わせて入浴を楽しめるようにしている。希望により数か月に数回ではあるが大浴場での入浴に出かけ入浴を楽しめるように支援している	基本は週2回となっているが、毎日入浴を行っているため希望に応じて対応できる。リフトを設置し車いすの方でも安心して入浴できる。緑茶湯やゆず湯などリラックスできる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的や副作用等を理解し、看護師と連携を図り服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント等において、暮らしの現状の把握に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望にそって戸外に出かけられるよう支援に努め普段行けない場所でも本人の希望を把握し家族等と協力し出かけられるよう支援している。	利用者の希望に合わせて買い物や外食、日帰り旅行などの外出支援を行っている。近所の公園の清掃活動をするなど地域への貢献を兼ねた外出も行っている。地元で人気の温泉施設にも出向き、職員も一緒に入るなど、楽しい行事になるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際には現金を所持し買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたり手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し生活感や季節感を採り入れ、心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の気分に応じて好きな場所で過ごせるよう配慮している。中庭には菜園があり馴染みの作業ができ、自由に行き来できるようになっている。夏場はバーベキューをするなど、屋内外ともに広くゆとりのある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような空間の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のしつらは、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	やさしい色調で風通しも良く、落ち着いて過ごせる空間である。利用者は居室に馴染みの物を持ち込み、職員と一緒に配置を考えている。窓からは自然豊かな林野が見え、リラックスして過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」「わかる事」を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		